

学位論文審査の結果の要旨

氏名	Michael Fesseha Yohannes (ミカエル・フィッサハ・ヨハネス)
審査委員	主査 松田 敏信 (印) 副査 安延 久美 (印) 副査 内田 和義 (印) 副査 小林 一 (印) 副査 井上 憲一 (印)
題目	Demand System Analysis of Coffee in the Japanese Households (日本の家計におけるコーヒーの需要システム分析)
審査結果の要旨 (2,000字以内)	
<p>本学位論文は、大標本の月別・都市別疑似パネルデータとシステム回帰モデルを駆使し、日本におけるコーヒーの家計需要を実証的に分析したもので、主要部分は5章から成り立っている。</p> <p>まず第1章では、序論として本学位論文の背景、問題意識、分析方法、および論文の構成を概観している。</p> <p>つづく第2章では、Deaton (2015年ノーベル経済学賞受賞者) and Muellbauer (1980)の linear approximate almost ideal demand system (LA/AIDS)を拡張した quadratic LA/AIDS (LA/QUAIDS, Matsuda, 2006)という需要関数のシステム回帰モデル(需要システム)を用い、コーヒーを含む非アルコール飲料8品目の家計需要を推定している。分析の結果、非アルコール飲料の中でコーヒー(豆または粉末)はやや奢侈財的性格が強く、果物・野菜ジュースと代替関係にあること、また、コーヒー飲料(缶またはボトル)はやや必需財的性格が強く、牛乳と代替関係にあることなどを定量的に明らかにしている。</p> <p>第3章では、特に気象要因がコーヒー、コーヒー飲料、緑茶、紅茶、茶飲料の5品目の家計需要に与える影響に着目しLA/QUAIDSを推定している。分析の結果、コーヒーとコーヒー飲料の需要は自己価格に対して非弾力的で、緑茶、紅茶、茶飲料の需要は自己価格に対して弾力的であること、温かくして飲むことが多いコーヒー、緑茶、紅茶は年間を通して気温が上がると需要が減少すること、冷たくして飲むことが多いコーヒー飲料と茶飲料は年間を通して気温が上がると需要が増加し、こうした気温が需要に与えるプラスの効果は特に夏季に大きいこと、コーヒー飲料と茶飲料の需要は増加トレンド、</p>	

コーヒーと緑茶の需要は減少トレンドであること、家計内の65歳以上人員が1人増加するとコーヒーの需要は約19%減少し、緑茶の需要は約31%増加すること、また、家計内の18歳以上人員が1人増加するとコーヒー飲料と茶飲料の需要はそれぞれ約10%、約4%増加し、緑茶の需要は約12%減少することなどを明らかにしている。

第4章では、コーヒー、コーヒー飲料、喫茶（外食）の3品目の家計需要の代替・補完関係に焦点を当ててLA/QUAIDSを推定している。分析の結果、3品目は相互に代替財であること、支出弾力性と非補償自己価格弾力性（の絶対値）はいずれも喫茶が最大、コーヒー飲料が最小で、特に喫茶の奢侈財的性格が顕著であること、コーヒー飲料の需要は増加トレンド、コーヒーと喫茶の需要は減少トレンドであること、また、世帯主の年齢の上昇とともにコーヒーの需要は増加し、コーヒー飲料と喫茶の需要は減少することなどを明らかにしている。

最後に第5章では、本研究全体のまとめと結論の提示を行っている。

以上述べてきたように、ミカエル・フィッサハ・ヨハネス氏の学位論文は、日本におけるコーヒーの家計需要に関する3編の独立した論文からなる本論（第2～4章）、および序論（第1章）と結論（第5章）より構成されている。需要システムによる日本のコーヒー需要の分析は、本研究が初めてである。さらに、柔軟性・実用性の高いLA/QUAIDSと大標本の月別・都市別疑似パネルデータの使用により、分析の独創性と信頼性が高められている。

本論を構成する第2～4章の基礎となった論文は、すでに主指導教員の松田敏信との共著として以下の査読つき国際学術雑誌に公刊あるいは近刊となっており、いずれも学術的に十分なレベルに達していると評価することができる。

第2章: Journal of Agricultural Science 7: 143-153, 2015.5

第3章: Agribusiness: an International Journal 32: 33-44, 2016.1

第4章: Journal of Agricultural Science, 印刷中（2015年12月3日受理）

特に、第3章の基礎となった論文が、トムソン・ロイターのジャーナル・リストに収録されたインパクト・ファクター付き(IF: 0.672)の国際学術雑誌に公刊されていることも、本学位論文の質を担保している。

以上のことから、われわれ審査委員一同はミカエル・フィッサハ・ヨハネス氏の学位論文「Demand System Analysis of Coffee in the Japanese Households（日本の家計におけるコーヒーの需要システム分析）」が博士（農学）の学位に十分に値すると判断する。